

創造主の守り 詩篇 121:1-8

2022. 7. 24 庄、丘 NO. 683

春日部福音自由教会 山田豊

詩篇 120 - 134 は、「都のぼりの歌」とジャンル分けされています。イスラエルの都エルサレムに行き、神殿に詣でることを表します。文語訳聖書には「京まうでの歌」という表題がついていました。本日のテキストである 121 篇は、都に上る巡礼者が、シオンの丘に建つ神殿が見えるところまで来た頃、改めて目を上に上げて歌ったのではないのでしょうか。神の助け、守りが、主なるにあることを賛美しているのです。

1,2 節は、助けは造り主である神からくる、と歌っています。現実の生活では、助けはそれにふさわしい救助者や団体からくると思います。創造主である神は、私たちが母の胎内にいるときに目を留めているだけでなく、世界の基が造られる前から、目を留めてくださっているのです。それゆえ、私たちが助けてくださることができるのです。

その神は、居眠りをするような神ではなく、四六時中起きていて、私たちを見守ってくださっていることが、3,4 節に描かれています。出エジプトの出来事を振り返るとき、神は寝ないで自分たちの先祖を守り、約束の地へと導いてくださったことを思い起こして歌っているのでしょう。

5,6 節は、昼の暑さからも、夜の危険からも、私たちを守ってくださることを歌っています。日本とは違い、直射日光がガンガン差し込み、寒暖差の激しい荒野においては、昼も夜も厳しい自然環境でした。野にいる獣も脅威となるような場面があったことでしょう。暑い日中は日陰で過ごした方が安全であるように、神様の陰で身を休めることができるのです。今年のような気しい暑さの時には、このみ言葉の真実さを身に沁みて強く感じます。

7,8 節は、この 121 篇をまとめる言葉です。すべての災いから守ってくださる神は、これまでもあなたの人生を守ってくださったように、これからも守り続けてくださるのです。

助けはどこから来るのか。今の時代は、もう一人の助け主である、聖霊によるのです。おひとりでありながら三つの位格を持っておられる、三位一体の神の守りがあると言えるでしょう。

しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところ遣わします。ヨハネ 16:7

引用聖句

1サム 1:3 この人は自分の町から毎年シロに上って、万軍の【主】を礼拝し、いけにえをささげていた。そこにはエリのふたりの息子、【主】の祭司ホフニとピネハスがいた。(ハンナの夫エルカナ)

ルカ 2:41 さて、イエスの両親は、過越の祭りには毎年エルサレムに行った。

詩篇 139:16 あなたの目は胎児の私を見られ、あなたの書物にすべてが、書きしるされました。私のために作られた日々が、しかも、その一日もないうちに。

エペソ 1:4-5 すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前から彼にあって選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされました。5 神は、みむねとみこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。

1列王 18:27 真昼になると、エリヤは彼らをあざけて言った。「もっと大きな声で呼んでみよ。彼は神なのだから。きっと何かに没頭しているか、席をはずしているか、旅に出ているのだろう。もしかすると、寝ているのかもしれないから、起こしたらよかるう。」

出エジ13:22 昼はこの雲の柱が、夜はこの火の柱が、民の前から離れることはなかった。

2列王 4:18-19 その子が、大きくなって、ある日、刈り入れ人といっしょにいる父のところに出て行ったとき、19 父親に、「私の頭が、頭が」と言ったので、父親は若者に、「この子を母親のところに抱いて行ってくれ」と命じた。

ヨナ 4:8 太陽が上ったとき、神は焼けつくような東風を備えられた。太陽がヨナの頭に照りつけたので、彼は衰え果て、自分の死を願って言った。「私は生きているより死んだほうがましだ。」

申命記 6:4-9 聞きなさい。イスラエル。【主】は私たちの神。【主】はただひとりである。5 心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、【主】を愛しなさい。6 私がきょう、あなたに命じるこれらのことばを、あなたの心に刻みなさい。7 これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家にすわっているときも、道を歩くときも、寝るときも、起きるときも、これを唱えなさい。8 これをしるしとしてあなたの手に結びつけ、記章として額の上に置きなさい。9 これをあなたの家の門柱と門に書きしるしなさい。

ヨハネ 16:7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなただがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなただがたのところ遣わします。